

訴訟被害

を支える

学生の会

立ち上げ集会



政治決断 望み薄れ

薬害肝炎訴訟原告ら

首相と面会できぎず

遠のく「一律救済」に落胆

薬害肝炎訴訟の原告・求めようと官邸を訪れ、弁護団代表ら六人が十日、福田康夫首相の代わり、午後、被害者全員の一律対応した大野松茂官房副長官と面会した。

「首相と二十日までに会えるよう日程調整を要請したが、大野副長官は約は、国と製薬企業の責任を認めない」と答え、困難との見通しを示した。

和議協議で大阪高裁首相との面談を文書で要請していた。

範囲を最も限定的にとらえた東京地裁判決に沿う方向で検討している。十三日に骨子案を審判で交付する予定。

内閣府側が責任を認めないとして請求した。命じた今、罰金裁判を隠し、粉飾決算の未、破産は詐欺行、た佐賀商工共済協同組合の賠償責任を認め、組合を認識、雄元参院議員ら旧経団連、三人と佐賀県に約十三億、千五百万円の損害賠償を、不法行為、求めた訴訟の控訴審第一、高裁が裁、裁判長と指摘、り、陳内氏側はあらためて賠償責任を否定した。この日、旧経団連と同盟に連帯、氏側は「

「これ以上何を…」無念の涙

「今まで頑張って来た、いいんだろ」。困の主

機感を募らせ、福田康夫首相による政治決断を求め、官邸を訪れた薬害肝炎訴訟の原告。今回で三度目の面会申し入れたが、

「これ以上何をすればいいのかわからない。何の役にも立てず、悔しい」と話した。

この日の



一律救済を求めた団結行動について、涙をこらえながら報告する原告の福田衣里子さん（左から2人目）ら。10日、東京・永田町の星陵会館

また聞き入れられず、首相に対する怒りと落胆の声が上がった。十日後、首相に代わって大野松茂官房副長官との約五十分間の面会を終えた原告代表らは、官邸近くで報告集めに臨んだ。全国原告団の山口美智子代表（五）ら実名を公表している原告十一人は、弁護士二人に付き添われ壇上に並んで座ったが、目に涙をため、沈痛

な表情。山口代表は集まった原告や支持者を前に、大野官房副長官から首相との面会は難しいと言われたことを説明。「このよう

「これまで強い口調で困や製薬企業を批判してきた九州原告団の福田衣里子さん（三）も失望を隠せない様子。「力不足ではない。これ以上何をすればいいのかわからない。何の役にも立てず、悔しい」と話した。この日の面会に同席した弁護士から「福田首相を弁護するから、福田首相は忙しくて、原告と会うための日程を入れることができない」とのことだった。大阪原告団の西川洋子さんは「時間が足りないのは私たちが救われるのか」と怒りをあらわにした。

「環境省の絶滅危惧種がピンチです」

環境省の絶滅危惧種いるアカウミガメの保活動法人（NPO）法人みかめ館は十一日、宿の新宿御苑イン、センターで「屋久島ワ開催。同館が鹿児島ガメ展を閉るのは初め一美代表（五）は「屋久島が直面している危機を」と話している。屋久島の水田海岸は北アカウミガメの産卵地。ウミガメの見守り屋久島のNPO

厚生労働省前での抗議行動



厚生労働省前での抗議行動

